

コムジェスト・アセットマネジメント

「意志のある投資」で納得感を支え 真の豊かさを届ける長期運用

1985年にフランスのパリで誕生した独立系運用会社のコムジェスト・アセットマネジメント。40年にわたり「クオリティグロス企業への長期投資」を貫く同社の強みと販売会社へのメッセージを、2026年に日本法人の代表取締役役に就任した渡邊敬氏に聞いた。

Q. コムジェストの運用哲学や強みについて教えてください。

当社の最大の特徴は、世界株式・日本株式など全戦略において「5年間にわたって年率2桁の利益成長が見込めるクオリティグロス企業を厳選し、長期投資する」という一つの哲学を貫いている点です。

世界中の運用チームが同じ時間軸・価値観で企業を評価しているため、地域を越えた議論がしやすいことも強みです。例えば、欧州株式チームはZARAを展開するインディテックスに長年投資してきました。同社がどのように新しい国へ出店し、物流網を整え、店舗運営の効率を高めてきたのかという知見は、日本株式チームがユニクロを展開するファーストリテイリングを分析する際にも生かされます。グローバルに事業を拡大する企業同士を比較することで、成長

余地や競争力をより立体的に捉えることができます。

社員の8割以上が当社グループの株主として、長期的な価値創造への意識を共有する点も、当社ならではの特徴です。短期的な売上を追うのではなく、既存投資家の期待に応えることを最優先にします。リスクもリターンも共有する構造が、チームの一体感と顧客本位の姿勢を支えています。

Q. パッシブファンドが広がるなかで、アクティブファンドの価値をどのように伝えていきますか。

お客様のニーズは一つではありません。投資を始めたばかりの方もいれば、少しずつ運用に慣れ、次の選択肢を探す方もいます。そうしたお客様には、投資先やその背景を理解しながら資産を託せるアクティブファンドを示すことで、納得感のある提案につながるのではないでしょうか。

当社では、こうしたアプローチを「意志のある投資」と呼んでいます。パッシブファンドは低コストで市場全体に投資でき、資産形成の入り口として有効な選択肢です。一方、市場全体に投資する性質上、投資先の選択に意志が介在しにくい面もあります。

これに対し、当社のアクティブファンドは投資先企業を一つずつ厳選しており、その投資する理由を具体的に示せるため、販売現場でも提案しやすくなります。また、投資する企業だけでなく、投資しない企業を選べることもアクティブ運用の大きな特徴です。実際に、当社の各戦略が長期で年率10～14%程度のリターンを示してきた背景には、平均利益成長率が高い企業を見極めてきたことが挙げられます。どの企業



コムジェスト・アセットマネジメント
代表取締役

渡邊 敬氏

の成長に、どんな理由で資産を託すのか。意志を持って投資先を選ぶことが、アクティブファンドを選ぶ大きな価値だと考えています。

Q. 今後の展望と、販売現場へのメッセージをお願いします。

NISA（少額投資非課税制度）の普及によって投資の裾野が広がったことは、非常に前向きな変化です。今後は、単に貯蓄から投資信託へ資金を移すだけでなく、投資先企業を成長とリスクを分かち合う存在として選ぶ意識が広がっていくことが大切だと考えています。

その観点から、当社は日本株にも可能性を感じています。足元で日本企業の成長や評価見直しの恩恵を大きく受けているのは海外投資家です。日本企業の実力や成長性が海外から評価されているなら、日本の投資家にもその価値を届けたいと考えています。世界株式のパッシブファンドが注目を集めるなかでも、世界で活躍する優れた日本企業は確かに存在します。

お客様が自分の価値観に合った資産の託し方を意識するようになれば、投資先の中身や成長ストーリーを伝える提案の重要性はさらに高まります。当社では、ファンドの背景にある運用哲学や企業の成長性を分かりやすく伝えるため、IFA・販売会社の皆様に向けた勉強会や情報発信を充実させていく方針です。

私たちの目標は、質の高い企業への投資を通じて、投資家の皆様に金銭的にも心理的にも豊かになっていただくことです。IFA・販売会社の皆様にとっても、ご自身が「5年、10年、20年と続けたい」と心から思え、お客様に自信を持って提案できるファンドの選択肢の一つであり続けたいと考えています。

コムジェストの 「クオリティグロス」基準項目

